

2010年11月4日

超高齢社会における豊かな生活を社会科学分野より分析

財団法人 日本興亜福祉財団が
『ジェロントロジー研究報告 No.9』を発行しました

日本興亜損害保険株式会社(社長:兵頭 誠)が1991年に高齢者の福祉増進への貢献を目的に設立した財団法人日本興亜福祉財団[※]では、平成20年(2008年)10月に助成先を決定した「平成20年度ジェロントロジー(老年学)研究助成(第9回)」の研究成果を、『ジェロントロジー研究報告 No.9』(B5判・149ページ・非売品)としてまとめ、発行しましたのでお知らせします。

※ 財団法人 日本興亜福祉財団 (設立:1991年、所在地:東京都文京区関口1-47-12)

本財団は、現在認知症高齢者を抱える家族への支援事業、介護福祉士養成を目指す学生への奨学金支給事業、ジェロントロジー(老年学)研究助成事業、高齢者の福祉に関する諸活動への援助を行い、また社会老年学研究所にて独自の社会老年学研究を実施し、高齢社会における高齢者福祉の増進に貢献することを目的としています。

◆ジェロントロジー研究助成

「ジェロントロジー研究助成」は、本財団が行う高齢者福祉の増進に向けたさまざまな事業活動の一環として実施しているものです。

第9回となる今回の研究助成は2008年5月下旬～7月下旬に全国の大学、研究所、教育機関、高齢者福祉施設の現場関係者などを対象に公募を行い、同年10月に助成対象を決定しました。

研究課題は、ジェロントロジーに関する社会科学分野における独創的・先進的な研究としています。応募総数51件の中から16件を選び、総額793万円の研究助成を行いました。

研究期間は1年あまりで、各研究者にその研究成果をまとめていただき、中間報告を経たうえで、その成果を『ジェロントロジー研究報告 No.9』として発行するものです。

(別紙1「ジェロントロジー研究助成の概要」参照)

◆さまざまなアプローチによる15の研究を集成

本報告書には15の研究成果が収められています。今回の研究報告では健常な高齢者の日常生活や社会参加活動から、認知症に関するさまざまな研究まで幅広いテーマが取り上げられています。

(別紙2「平成20年度日本興亜福祉財団ジェロントロジー研究助成対象者一覧」参照)

以上

【ジェロントロジー研究助成の概要】

- 主催 : 財団法人日本興亜福祉財団
- 助成の目的 : ジェロントロジーの社会科学・人文科学分野の研究発展への寄与
・上記研究を通じ、高齢者をめぐる諸問題の研究解明により、豊かな長寿社会発展の一助とする
・若手や現場の福祉関係者を含む広い範囲から人材を募りその育成の一助とする
- 募集テーマ : ジェロントロジーに関する社会科学分野における独創的・先進的な研究
- 応募総数 : 51 件
- 助成件数 : 16 件
- 助成金総額 : 793 万円(1 研究あたり平均助成額 49 万円)
- 助成最高額 : 50 万円
- 募集方法 : 全国の大学、研究所、研究・教育機関、全国の高齢者福祉施設関係者等を対象に広く公募を行いました。
- 募集期間 : 2008 年 5 月下旬～7 月下旬
- 選考方法 : 各選考委員が募集テーマ別に、独創性、先進性、重要性の観点から評価を行い、実行可能性、合理性を勘案しました。また、学際分野や他の諸機関の助成対象になりにくい分野の研究にもスポットをあてることに留意しました。最終選考は、全委員の総合評価により行われました。
- 選考委員会 : 委員長 長嶋 紀一 (日本大学)
委 員 今井 幸充 (日本社会事業大学)
上野谷 加代子 (同志社大学)
冷水 豊 (日本福祉大学)
袖井 孝子 (お茶の水女子大学)
竹内 孝仁 (国際医療福祉大学)
松村 孝雄 (東海大学)

【ご参考】ジェロントロジー (GERONTOLOGY・老年学) とは

ジェロントロジーとは、老化と高齢者に関する諸問題を研究するもので、生物学・生理学・医学・経済学・社会学等の幅広い領域を持つものです。1950 年に第 1 回国際老年学会がベルギーのリエージュで開催され、国際的な学問としての市民権を初めて確立しました。

その後、1978 年の東京での学会では、社会科学の部会において、老化の人類学、心理学、社会学、人口学、政治経済学、公衆衛生学、精神医学の諸科学を並行的・交流的に研究することが目標とされています。

世界の高齢化が進むなか、欧米諸国では、このジェロントロジーに対して社会的認知度も高いものがあります。

我が国では、1952 年頃から医学分野を中心に研究が本格化しはじめました。1959 年には日本老年学会が発足し、1971 年に東京都老人総合研究所ができ、研究が進んできました。現在さまざまな学問分野で高齢者や高齢社会の抱える問題を対象とした研究が行われていますが、日本の急激な高齢化の進展にともない、時々の解すべき問題が次々と生じ、常に研究課題は山積している状況です。とりわけ社会科学の分野においては高齢者先進国の欧米に比べ立ち遅れており、緊急に拡充が求められている状況にあります。

我が国においては、2010 年には 65 歳以上の高齢者がついに 23%を超え、2007 年度から既に超高齢社会へと突入しています。超高齢社会となった現在、ジェロントロジーの社会科学分野における研究助成及び若手研究者の育成は最も重要な課題のひとつであると本財団は考えています。

平成20年度日本興亜福祉財団ジェロントロジー研究助成対象者一覧

■研究課題：ジェロントロジーに関する社会科学分野における独創的・先進的な研究

No	対象者	所属	研究テーマ	形態
1	前島伸一郎	埼玉医科大学国際医療センター	高齢者における展望的記憶の障害と日常生活活動に関する研究	共同
2	谷勝良子	高知大学医学部	認知症高齢者の性的逸脱行動と高齢者ケアにかかわる専門職員の身体的・精神的健康に関する検討	共同
3	鈴木啓子	名桜大学人間健康学部	一般医療機関を利用する高齢患者による攻撃的行動への効果的ケアに関する研究	共同
4	菅谷泰行	関西医科大学	高齢者の段階的年齢区分の妥当性と偏差に関する老年言語学的検討	個人
5	小池高史	横浜国立大学大学院環境情報学府	「認知症であること」の相互行為的達成：認知症高齢者介護場面の会話分析	個人
6	野村祥平	ルーテル学院大学大学院総合人間学研究科	地域における高齢者のセルフ・ネグレクトの実態とその支援・予防に関する研究	個人
7	荒木晴美	富山福祉短期大学看護学科	在宅療養者を介護している人の自分自身の終末期への思いへの影響	共同
8	岡林春雄	山梨大学教育人間科学部	認知症高齢者は、若者との関わりによってどのように変容するのか	個人
9	目黒道生	鏡野町国民健康保険上斎原歯科診療所	高齢者施設における医療職種の人材配置と入所者の低栄養状態との関連性の研究	共同
10	石坂信和	大阪医科大学第3内科	高齢者において腹部肥満が糖・脂質代謝異常のリスクを増大しているかどうかの検討	個人
11	堀籠はるえ	北海道文教大学人間科学部	高齢者の性—社会活動への意欲と参加への影響	個人
12	島内晶	明治学院大学大学院心理学研究科	虚記憶課題を用いた「記憶の誤り」に関する加齢の影響	個人
13	工藤禎子	北海道医療大学看護福祉学部	有料老人ホームに引越した高齢者の適応のプロセス	個人
14	上白木悦子	九州大学大学院医学研究院	高齢者(特に判断能力を欠く者)に対する医療と代諾	共同
15	山影有利佐	筑波大学大学院人間総合科学研究科	高齢者の社会参加活性化による成長促進プログラムの検討	共同

【主な内容】

- No.1 は展望的記憶障害が日常生活に及ぼす影響について検討しています。
- No.5 は「認知症であること」を会話分析の手法を用いて、高齢者施設における職員と入所者との会話開始の場面に注目した意欲的な研究報告です。
- No.6 は高齢者のセルフ・ネグレクトを取り上げています。セルフ・ネグレクトは介護保険の利用を阻む要因ともなり近年問題視されるようになってきました。高齢者虐待防止法の施行から4年が経過し、高齢者虐待への関心が高まるなか、今後のさらなる高齢化や核家族化の進展により、高齢単身世帯の増加が見込まれ、高齢者のセルフ・ネグレクトはこれからますます大きな問題になることが予想されるため、支援制度や発生予防策に関して提言がなされています。
- No.11 は従来検討されることがあまりなかった高齢者の性と社会活動がどのように関連しているかを明らかにしています。
- No.15 は高齢期における精神的成長に着目し、どのような種類の成長がありうるのか、さらに精神的成長に及ぼす社会参加の促進効果や、社会参加を抑制する要因としての対人不安の影響について検討されています。